

港湾空港分野における公共調達制度の動向分析



港湾研究部 港湾施工システム・保全研究室
 施工システム第二係長 石松 和孝 室長 井山 繁

(キーワード) 公共工事、総合評価落札方式、技術評価、工事情質

4.

仕事の進め方のイノベーション

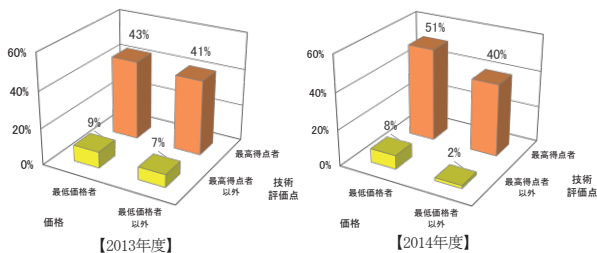
1. はじめに

公共事業において、受注をめぐる競争が激化し低価格による入札が急増するとともに、粗雑工事の発生、下請業者や労働者へのしわ寄せによる品質低下等の懸念を背景として、2005年4月に「公共工事の品質確保の促進に関する法律」(2014年6月改正)が施行され、その主要な取組として総合評価落札方式が実施されている。総合評価落札方式では、公共工事の施工に必要な技術的能力を有する者が施工することとなり、工事情質の確保や向上が図られるだけでなく、工事目的物の機能向上や総合的なコスト縮減等により現在かつ将来の国民に利益がもたらされる。港湾空港分野においてその適用率は年々増加し、2009年度にはほぼ全ての工事において適用されるに至った。

以下では、全国の港湾空港分野における直轄データの集計に基づき、工事における落札者に占める価格と技術評価点の関係や工事情質への影響に関する分析を行った結果を報告する。

2. 落札者に占める価格と技術評価点について

総合評価落札方式が見直された2013年度、及び2014年度の技術提案評価型において、落札者に占める価格と技術評価点の関係について図1に示す。



※北海道開発局及び沖縄総合事務局のデータは含まれていない。
 図1 落札者における最高技術得点者と最低価格者の関係

落札者が最も多いのは最低価格、かつ技術評価点が高い業者であるが、この2ヶ年のデータを見る

と、全体の4割~5割は最低価格でない業者が落札しており、技術力の評価も加味されて決定したことがわかる。

3. 工事情質への影響

2005年度以降の総合評価落札方式実施率、及び各発注方式別の工事成績評定点を以下に示す。2005年度以降、総合評価落札方式の適用は着実に進んでいることがわかる。

また、工事成績評定点については、技術的な工夫の余地が大きい工事で適用される総合評価①と技術的な余地が小さい工事で適用される総合評価②共に、多少の増減はあるが上昇傾向となっている。また、より高度な技術力を求める評価方式である総合評価①が②より常に高い評価点となっている。

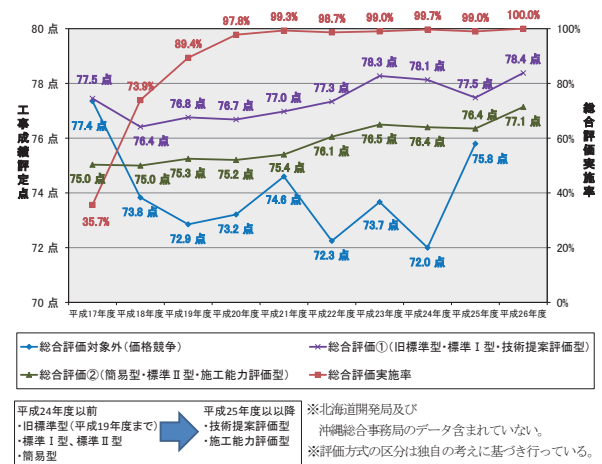


図2 総合評価落札方式適用率と工事成績評定点

4. 今後の予定

今後も引き続き全国の直轄工事及び業務における総合評価落札方式の落札者に関する分析や工事情質への影響等のフォローアップや検証を進めていくとともに、2014年度に新たに導入された資格登録制度により登録された資格による工事情質への影響等について分析を行っていく予定である。